

令和４年度第２回長井市振興審議会 議事録

開催日時：令和４年９月１３日（火） １５時００分 ～ １６時００分

開催場所：長井市役所 庁議室

出席者：３０名（委員１４名、事務局１６名）

■振興審議会委員 下平裕之会長、遠藤倫夫委員、渡部政明委員、加藤眞佐夫委員、齋藤裕之委員、蒲生直樹委員、上村正己委員、青木與惣右エ門委員、井上榮子委員、梅津壮一郎委員、梅村律子委員、土屋智代委員
（出席１２名、欠席６名）

■事務局 齋藤環樹副市長、竹田利弘政策推進監、青木邦博技監、新野弘明総務参事、梅津義徳厚生参事、赤間茂樹産業参事、小林克人建設参事、佐藤久財政課長、三瓶仁之総務課長、佐藤秀人教育総務課長
総合政策課 渡邊恵子課長、佐々木真一総合戦略室長、安部惇士主任、高橋直也主事、本間大輝主事、四釜

傍聴者：無し

【次 第】

- １ 開 会
- ２ あいさつ
- ３ 協 議
（１）第五次総合計画の総括について（資料１）
- ４ 報 告
（１）第六次総合計画の策定について（資料２）
- ５ その他
- ６ 閉 会

【議事録】

- １ 開 会
- ２ あいさつ

○齋藤環樹 副市長

お忙しいところお集まりいただき、感謝申し上げます。委員の皆様には、日頃から当市のまちづくりについて、御理解と御協力を賜り、重ねて御礼申し上げます。第六次総合計画の策定については、８月開催の振興審議会の各専門部会や市全体のワークショップ、更には中央地区・平野地区・伊佐沢地区・豊田地区で第１回の地区まちづくりワークショップを開催し、委員の皆様や市民の皆様からご意見いただきながら進めている。

現在の計画である第五次総合計画では「みんなで創る しあわせに暮らせるまち 長井～人にぎわい 心かよう 水のふるさと～」を将来像に設定し、様々な施策に取り組んできた。先月の振興審議会専門部会では、部会ごとに第五次総合計画の期間の取り組みと総括について報告させていただき、委員の皆様からご意見を頂戴した。今回の振興審議会では、専門部会でのご意見を踏まえて、第五次総合計画の総括を報告し、第六次総合計画策定の取り組みの状況や今後のスケジュールについてご説明させていただく。

○下平裕之 会長

第六次総合計画の策定に向けて様々な取り組みをされている。地区のワークショップに自身も参加しているが、地区の皆さんで課題や将来について熱心に考えていらっしゃる。改めて長井市のことをしっかり考えていかなければならない、と考えたところ。

副市長からあった通り、先月の専門部会を踏まえて本日は第五次総合計画の総括について考えていただきたい。

3 協 議 [座長＝下平会長]

(1) 第五次総合計画の総括について(資料1)

資料1に沿って、事務局から説明。また、欠席の驚見委員から意見紹介の依頼があったため、参考資料2の驚見委員の意見及び提供資料「地方創生のファクターX」を紹介した。

【資料訂正】

- ・参考資料1のP14「介護認定率」について、専門部会での指摘により達成度を「A目標以上に達成できた」と修正すべきところ、修正されていなかった。
- ・(議事録により修正) 参考資料2のP14「上下水道の成果指標」について、下から4行目「特環地域」に修正(誤り「突貫地域」)。

(会長)

資料1で基本構想に基づき6つ重点項目の説明があった。この重点項目は総括として、どこに表れているか。細かいところは多く書かれているが、市民の方が一目で見て、「この項目についてはこういうことだったんだ」と分かるように整理するつもりはあるか。

(事務局)

基本構想については数値目標等設けていない状況。こういうことを目指していくという理念を定めている部分で、分かりやすい形で総括を示すのは難しいと考えている。参考資料1のP6以降の文章の形で、資料1で示したようなまちづくりの課題への対応、まちの将来像である幸せに係るアンケートの推移を記載していきたいと考えている。

(会長)

数値としてまとめることが難しいので、文章としてまとめるということで了承した。

資料1のP3「少子高齢社会への対応」について、基本構想では「高齢者の生活を地域で支え合い、安心して暮らせる体制づくりに取り組む必要があります。」と記載がある。一方で、地域のつながりについて、資料1のP13で地域活動を維持するための負担増加に言及している。地域で支えあう力の低下が生じているのが正直なところ。地域で支え合い安心して暮らせる体制づくりについて、どのように評価していきたいと考えているか。

(事務局)

アンケート結果を見て、私たちも驚いているところが数点ある。1番下降している・ネガティブな意見が多かったのが、会長から指摘のあった「地域とのつながり」の部分(資料1のP11)。この部分の施策として、長井市では公民館のコミセン化を行った。地域でできることと市でできることは違い、地域の方に自発的に地域のことを考えてもらう、「自らの地域を自らの力で良くしていく」と考えてもらうためにコミセン化をした。今後はネガティブな意見が若干少なくなるのではと考えている。また、コミセン化によって、地域の憩いの場は充実していくと考えている。

アンケートの中で1番驚いたのが、資料1のP9「暮らし」の視点。「ゆとりある生活ができていますか」という設問について、ポジティブな意見が31%から47%に伸びている。ネガティブな意見も37.5%から18.3%に改善している。これらが顕著だったため、何故なのかと考えており、令和4年度のアンケートも今後見て分析が必要かと考えている。

(委員)

資料1のP10「安全・安心」の視点について、特に自然災害について、先月の8月3日に豪雨

災害があり、市民の方が関心を持っていると感じる。ここ数年の異常気象で、2年前にも大雨があり、平成25年～26年辺りにも大雨があった。最上川の増水だけではなく、各地域の小河川や土地改良区の水路等が大雨によって増水し、住宅地や農地が浸水するということで、市民の方は心配していると感じている。9月の定例議会でも議員の一般質問があったようだが、一級河川の最上川だけでなく、小河川や圃場整備後の水路など、地域ごとに実情は違うと思うので、今後どういうふうに反映していくかが大事ではないかと思う。

(事務局)

アンケートについて、8月3日の豪雨災害後の意見が反映されればネガティブな意見が増えてくるのではと考えている。ご意見は議会等での答弁を踏まえてのものということで理解した。従来のハード整備はもちろん行っていくが、異常気象による大雨はハード整備が追い付かないほどの雨の降り方になっている。このことを市民の方々に理解いただくことも方法の1つだと思っている。自助・共助により、小さな水路であれば泥を上げたり草を刈ったりという作業や避難体制を確立することが昨今の豪雨に対する備えだと思っている。ハードとソフト両面についての対応が今後必要になってくると考えている。

(委員)

資料1のP8、アンケートの「あなたは「幸せ」だと思いますか」という項目について、専門部会で委員から紹介された「地方創生のファクターX」の中に「well-being 総合指標」という指標があり、この指標では山形県は全国最低レベルに低いという結果になっている。well-beingという視点の見方と長井市がやってきた「「幸せ」だと思いますか」というアンケートの結果を比較してみたい。well-beingは今後も大変重要な視点だとされているので、次期総合計画を策定する際にも、この視点も入れて分析し計画を立てる必要があると思う。

「地方創生のファクターX」について、専門部会での委員の紹介後に見てみた。寛容度について、文化・芸術の大切さが述べられるとともに、「男性は仕事で女性は家事・育児」という性別役割意識の涵養度が驚くほど地方創生のファクターになっていることが記載されている。様々な課題はあるが、寛容度がUターン意向や離脱意識につながるという報告だった。各分の野課題に通底する視点として、この視点を大事にしていきたいという意見が専門部会でもあったので補足させていただきたい。

(事務局)

委員からいただいた意見について、総括と六次総への反映を検討していきたい。Well-beingの考え方も非常に重要であり、コロナ禍の中でデジタル化等も進めているので、どうやって融合させていくかも重要と考えている。長井市でもSDGsに掲げる持続可能な社会を作っていくためには、そういった視点が非常に重要だと思う。

アンケートについて、資料1のP13にあるように各設問を合計すると「暮らし」と「安心・安全」は若干伸びている又は維持しているが、「地域とのつながり」「生きがい」については若干ネガティブな意見が多くなっている。そういったところを改善するように六次総に活かしていきたい。

(委員)

ワークショップに係わっている山形大学工学部の高澤由美先生は、都市計画が専門で、well-beingの視点で地域開発をされている先生なので、ご意見を聞く機会があれば相談してみたいと思う。

(会長)

長井市で実施している市民アンケートは主観的な「自身はこう思っている」というもの。Well-being等の調査は精度が高いものなので、そういったものを考慮しながら進めてほしい。

(委員)

市民アンケートの総数と回収率、回答者の年代等分かるか。

(事務局)

最初にアンケートを行った平成24年は1,800人を対象としていたが、最近の調査では1,000人を対象としている。年代別に無作為に20代以上を対象として抽出している。なぜ1,000人かという、信頼度95%以上を確保したいということで、長井市の場合は回答率が40%前後。高い場合は50%程度。一般的に確率論で400人程度回答があれば95%程度の信頼度が得られる。例えば倍の2,000人を対象として1,000人の回答があったとしても、確率的に数%程度しか変わらないので、1,000人を対象としている。

「なぜ市民全員を対象にしないのか」というご意見もいただくが、全員対象にしたとしてもアンケートの信頼度は数%しか変わらない。また、長井市では他にも年に数回アンケートを行っている。違うアンケートでも2回・3回と回答する方が出てきて、ご負担をかけるということもある。信頼度95%以上を確保するという、数を決めた上でサンプル調査として行っている。

(委員)

統計的なことはその通りだと思う。少子高齢化の社会において、20歳以上から無作為に1,000人抽出という、高齢の方が多いのではないかと。

(事務局)

平均をとって、各年代の中で何人という形で抽出しているので、対象者が高齢の方に偏らないようにしている。

(会長)

総括はかなり細かい項目になっている。市民の方が見やすいようにダイジェスト版を作る予定はあるか。

(事務局)

そこまでは検討していなかった。五次総の総括は、六次総の下地としても活用する。六次総の策定について、あやめレポ（全ページカラーのタブロイド判で全戸配布）に「総括でこういう意見があり、このように六次総に反映させた」という形で紹介したいと考えている。

(委員)

参考資料1の中で、市民アンケートの結果がそれぞれの項目に記載してある。この数字はどのように読み取ったら良いか。例えば、参考資料1のP16で「健康づくり」の満足度が平成24年0.69となっているが、これは0.69プラスになったと捉えれば良いのか。満足度と重要度の違いや分野別の何位というのをどう評価したら良いのか教えてほしい。

(事務局)

満足度について、市民アンケートの設問としては「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」「わからない」という項目になっており、「満足」だとプラス4ポイント、「やや満足」だとプラス2ポイント、「やや不満」だとマイナス2ポイント、「不満」だとマイナス4ポイントとして計測し、回答の平均値を算出している。重要度についても同様の計測方法で、どの程度重要という回答があったかで、重要度のポイントをつけている。年度によって27分野や30分野の質問を設けており、例えば「健康づくり」であれば、平成26年度は全体で30分野あるうち満足度が7位、重要度が19位という形で表記している。

(会長)

補足だが、同ページ右上に満足度と重要度の関係図があり、満足度は右が高く重要度は上が高いという形。例えば、「健康づくり」は満足度が高く重要度も高いという形。これは重点維持分野として、これからも維持していくべきところ。1番問題になるのは重点改善分野という満足度が低く、重要度が高いもので改善すべき点となる。市民アンケートには説明があるので、市民の方にも委員の方にも分かるように総括に記載した方がよい。

(事務局)

アンケート結果を見ながらコロナの影響はどうなのだろうと考えていた。令和２年度の市民アンケートはコロナの影響が大きく出る前のものという気がしている。令和４年度のアンケート結果はもう少ししたらお示しできるが、どういうふうに変動しているか個人的にも興味がある。令和６年度以降の社会の在り様やコロナ後の世界、家族の在り様、ゆとりのある生活等色々なものに影響があるのではと考えている。令和４年度のアンケート結果を見ながら、六次総の基本構想に向けて考えていきたいと思っている。

(会長)

影響がその通り回答に出てくるかは難しいところだが、例外なのか、恒常なのかアンケートの結果を見て考えていく必要がある。

多量の資料ということで、すぐにはお気づきにならない点もあると思う。皆様に読んでいただいて、見方がどうかという形式的なところや市民の方も見るということでどうやって見やすくしたら良いかというところ等、各委員から聞く時間を事務局で設けてほしい。今後また皆様の議論を踏まえた上で五次総の総括を作れればと思う。

4 報 告

(１) 第六次総合計画の策定について（資料２）

資料２に沿って、事務局から説明。質問等無し。

(会長)

皆様に総括の分厚い冊子を見てもらうのも大変なので、例えば先ほどの市民アンケートで評価の低いところを中心にどう改善していくか等をご意見もらえればと思う。例えば長井市では観光振興も目標に掲げていたと思うが、参考資料１のＰ６２では「観光振興」が重点改善分野になっている。先ほども言ったとおり、重要度は高いが満足度は低いという評価。こういったところが六次総に向けての改善点になってくる。様々な分析がされていけば、その分析に対する評価や六次総でこうしたらいいのではという形で冊子をご覧いただきたい。こういう市民アンケートにおける重点改善分野を中心に皆様からご意見いただいて、事務局で検討いただきたい。

5 その他

6 閉 会